



梅島小だより

「3つの礼」

校長 江原 敦史

6月のある日、本校の児童が日本将棋連盟主催の将棋大会に学校チームとして出場し、私も行きました。その時、日本将棋連盟の方が「3つの礼」についてお話されたことが強く心に残っていたので、翌日の全校朝会で話しました。

将棋には「3つの礼」というものがあります。

「3つの礼」とは、

「よろしくお願いします」（対局を始める礼）

「負けました」（負けを認める礼）

「ありがとうございました」（対局を終え、相手に感謝する礼）です。

このうち、「負けました」というあいさつは、将棋特有のものです。

負けた方が、自ら負けを認めない限り対局が終わらないのです。

まだ勝てるのではないかとねばることは大切です。

しかし、どう考えてもこれ以上自分に勝ち目はないという状況が訪れます。

そのときは、悔しいという気持ちに打ち勝って「負けました」と言わなければいけないのです。

この「負けを受け入れること」は、「この負けは自分に原因がある」と考えて、次の成長への歩みを始めることにつながります。「どうすれば勝つことができたのか」と振り返って考えることができるのです。

将棋は、相手がいないとできません。

「負け」を潔く認め、勝った方も負けた方も相手に敬意を払い、互いに次の高みへと挑戦できるように切り替えることのできる将棋の世界は素晴らしいと思いました。

みなさんも、日頃の学校生活で、自分の負けを認めたり、自分に非があることを認めたりしなければならない場面があると思います。そのようなときに、「負けました」「ごめんなさい」と言える勇気をもてると素晴らしいですね。それは、みなさんの成長にかならずつながるからです。

子どもたちは話を真剣に聞いていました。

将棋大会に出場した児童は、試合当日「負けました」と潔くあいさつすることができていました。

その姿に清々しさを覚えました。

悔しさの中に自分を振り返る経験は、きっと今後役に立つはずですよ。

学校の日常生活の中でも、このような経験を大切にしていきたいです。